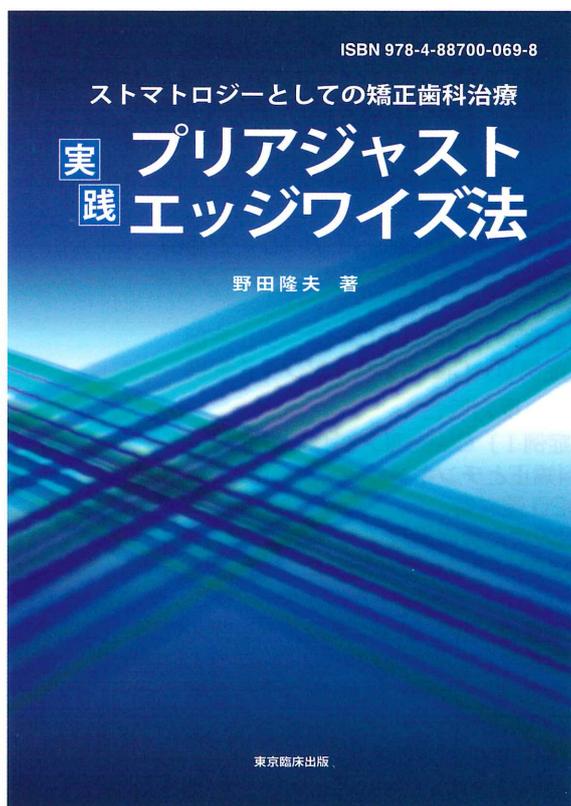


# Stomatologyの視点から矯正歯科治療を再構築一。

ストマトロジーとしての矯正歯科治療

## 実践 プリアジャスト エッジワイズ法

野田 隆 夫 (野田矯正歯科クリニック)



- 著 者：野田隆夫 (野田矯正歯科クリニック)
- 仕 様：A4 判 / 236 ページ / フルカラー
- 定 価：12,000円+税
- 発 行：東京臨床出版
- 発売元：(株) 松風 営業部矯正課
- 発行日：2013年8月

矯正歯科治療は不正咬合を治すことと表される。目的は正常咬合、あるいは咬合の安定性で、この概念はDentistryである。一方、矯正歯科治療をStomatologyとして捉えた場合、矯正治療は手段であり、目的は、疾病・障害を治す、あるいは予防することである。本書は、Stomatologyの視点から矯正歯科治療を再構築した最初の試みであろう。

矯正歯科治療が手段であるならば、簡便なことが必要である。このため、著者はTi-Niワイヤーとプリアジャストエッジワイズ装置を組み合わせた治療を行っている。Ti-Niワイヤーは、1) ワイヤーベンディングを行わずに歯の配列が行える 2) 効率の高いアップライトスプリング特性により、半埋伏の下顎第三大臼歯のアップライトが可能である 3) MEAWテクニックと同等の治療効果を持ち、特にClassⅢハイアングル症例で有効である 4) 歯列の拡大作用があり、従来不可能と考えられた舌側転位歯等の配列、歯列幅径の拡大も可能である。

治療においては、バンド、スプリング、ワイヤー鑑着を捨象した。これらは歯肉炎や歯周病の誘因となり、チェアタイムを遅延させ、治療的診断を疎かにする可能性もあるためである。チェアサイドにおける診療において最も重要な点は、治療的診断 (Therapeutic Diagnosis) と考える。矯正歯科治療は、症例が呈する9つの顎態パターンそれぞれに咬合を適応させ、疾病・障害を治す、あるいは予防することである。この点、正常とは何かを追い求めた従来のテキストとは一線を画す。そして、この治療的診断で重要なことは説明義務である。義務を果たすためには、矯正治療によるベネフィットとリスクについて、顎態パターンごとに明確に説明できる知識が必要である。本書ではとくにこの点を強調したい。

—「はじめに」より抜粋・要約—

著者略歴：1986年：東京医科歯科大学卒業 / 1986年：東京医科歯科大学矯正学第一講座入局 / 1993年：東京医科歯科大学矯正学第一講座助手 / 2000年：東京都昭島市にて矯正専門開業

お申し込み・お問合せは、株式会社松風 営業部矯正課まで

〒113-0034 東京都文京区湯島3-16-2 松風ESTビル3F TEL 03-3832-1824 / FAX 03-3232-7682

〔I〕 エッジワイズ装置

第1章 エッジワイズ装置の基礎

- エッジワイズ装置
- プリアジャストエッジワイズ装置のブラケットポジション
- ブラケット装着の基礎知識
- プリアジャストエッジワイズ装置の装着
- ブラケットポジションのチェック法

第2章 プリアジャストエッジワイズ装置と Ti-Ni ワイヤー

- 歴史的背景
- 超弾性型 Ti-Ni ワイヤーの力学特性
- 超弾性型 Ti-Ni ワイヤーと  
プリアジャストエッジワイズ装置

第3章 小臼歯チューブとセルフライゲイションブラケット

- 歴史的背景
- 小臼歯チューブ
- まとめ

第4章 プリアジャストエッジワイズ装置の審美性

- 装置の審美性の確立

〔II〕 診断

第1章 診断の基礎

- 科学的証明
- 因果関係の種類

第2章 検査と診断

- セファロ分析
- 顔貌診査・E-ライン
- 口腔内診査
- 模型分析
- 診断
- 説明義務
- 裁判所の判断基準

〔III〕 歯の移動

第1章 歯の移動の基礎知識

- 歯の移動様式
- 歯の移動の生物学的背景
- 歯の移動力学に関する基本用語
- モーメント
- 摩擦の法則
- 結紮による摩擦

第2章 歯の移動理論

- M/F 比理論と歯の移動
- 歯の移動モデル
- 歯の移動様相
- 歯根膜に負荷される力

結紮による摩擦の影響

第3章 犬歯遠心移動

- 犬歯の遠心移動のメカニクス
- 新しい犬歯の移動法
- セクショナルアーチスライディングメカニクス
- どこまで犬歯を牽引するか
- 症例報告 / 考察 / まとめ

第4章 スライディングメカニクス (空隙閉鎖)

- スライディングメカニクス
- スタンダードエッジワイズ法と  
プリアジャストエッジワイズ法
- スライディングメカニクスの術式
- スライディングメカニクスの力学的特性と顎態パターン
- スライディングメカニクスを妨げる要因
- レントゲンによる確認
- 閉鎖された空隙の再発防止
- 臼歯の近心移動
- 症例報告 / 考察

〔IV〕 臨床

第1章 上顎前突

- 〔症例Ⅰ〕 Class II ハイアングル症例
- 〔症例Ⅱ〕 Class II ハイアングル・アベレージ症例中間型
- 〔症例Ⅲ〕 Class II div.1 ローアングル症例
- 〔症例Ⅳ〕 Class II div.2 ローアングル症例

第2章 叢生と口唇閉鎖不全

- 叢生と口唇閉鎖不全
- 〔症例Ⅰ～Ⅳ〕 Class I アベレージ症例  
水平半埋伏下顎第三大臼歯のアップライト  
方法
- 〔症例Ⅴ〕 Class I ローアングル症例
- 〔症例Ⅵ〕 Class I ハイアングル症例

第3章 反対咬合

- 〔症例Ⅰ〕 Class III アベレージ症例
- 外科矯正とチンキャップ
- 8020 達成者
- 反対咬合と抜歯治療
- Ti-Ni アーチワイヤーテクニック
- 〔症例Ⅱ〕 Ti-Ni アーチワイヤーテクニックを用いた症例
- 〔症例Ⅲ～Ⅳ〕 Class III ハイアングル症例
- 〔症例Ⅴ〕 ハイアングル症例かローアングル症例か迷った症例
- 〔症例Ⅵ〕 Class III ローアングル症例
- 歯周・矯正治療
- 混合歯列期の反対咬合症例
- 〔症例Ⅶ～Ⅷ〕 Class I アベレージ (歯性反対咬合) 症例

「スマトロジーとしての矯正歯科治療 実践プリアジャストエッジワイズ法」 申込書

●お申込み部数 ( ) 冊

●お取扱いは

お名前 (医院名)	TEL	-	-
ご住所	〒	-	-